

会 議 録

会議の名称	令和6年度第1回小金井市公共下水道事業審議会
事務局	環境部下水道課業務設備係
開催日時	令和6年7月26日(金) 10:00~11:00
開催場所	小金井市役所本町暫定庁舎本町暫定第1会議室
出席者	委員 浦谷 規、楠元 克成、貞包 秀浩、南 恵子 齋藤 徹子、深澤 良彦、高木 和子
	その他
	事務局 下水道課長 関 次郎、業務設備係長 井出 信綱、 工務維持係長 小林 君男、業務設備係主任 牛込 孝子、 業務設備係主事 田山 未来
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可 ・ 一部不可 ・ 不可
傍聴者数	0人
傍聴不可等の理由等	
会議次第	別紙のとおり
会議結果	別紙「審議経過」のとおり
提出資料	別紙のとおり
その他	なし

1 令和5年度小金井市下水道事業会計決算について

事務局から資料1の令和5年度小金井市下水道事業会計決算書及び参考資料1と2をもとに説明を行った。質疑応答における内容は以下の通り。

(貞包委員)

今後、東京都へ支払う維持管理負担金の値上げが予想されるとあったが、具体的なスケジュールは把握しているのか。

(事務局)

東京都から具体的なスケジュール、金額はまだ示されていないが、しばらく先ということはない。東京都からの情報発信を待ってからはなるが、市としても来年度から使用料の改定検討に動き出さなければならない。

(浦谷委員)

東京都の維持管理収支に係る財務状況は把握しているのか。

(事務局)

東京都流域下水道の決算で数値の確認ができるが、ここ数年の維持管理収支はずっと赤字基調である。

(楠元委員)

今年度、令和6年度の維持管理負担金は予算内で収まるのか。

(事務局)

営業費用の維持管理負担金は、雨の降水量によっても、処理量が変わる。最終的な処理費用は年度が終わって確定するので年度途中で予測するのは難しく、予算からの過不足分を年度が終わってから清算する形になる。

(貞包委員)

東京都の処理費用の赤字解消のために、都は区部と流域下水道とも処理費用を値上げする動きをしているのか。

(事務局)

区部は東京都が直接下水道事業を行っているので、維持管理負担金の支払いはないため、この事案は流域下水道だけのものとなる。

(浦谷委員)

小金井市は比較的財政状況は良い方だと思うが、他の自治体も維持管理負担金の値上げがあった場合、厳しいのではないのか。

(事務局)

おそらくどこの自治体もこの何年かで使用料の改定の対応をしないと、財政的に成り立たないと思われる。

(楠元委員)

令和5年度分の消費税は、決算書上では過年度分の修正も反映したうえで未払金として計上されているか。

(事務局)

過年度分の修正も反映したうえで未払消費税として計上している。

2 その他

現委員での任期が令和6年7月31日で終了するため、各委員から一言ずつ感想、提言をいただいた。

(浦谷委員)

印象深いのは審議会で処理施設の見学を行ったこと。今後も小金井市の発展と共に下水道事業を支えていただきたい。

(斎藤委員)

下水道が恒久的に使えるよう、老朽化の対応を適切に行っていただきたい。下水道使用料の改定もこの会議に参加していれば値上げも仕方ないと思うが、それを市民に伝わるように上手に発信して行って欲しい。

(高木委員)

下水道事業には今まで馴染みがなかったが、自ら色々調べながら理解を深め、興味を持っていった。次期も委員として継続するが、更に理解を深めていきたい。

(深澤委員)

会議に参加してから川の水などにも興味を持ちつつ、会議資料を見させてもらうと、改めて自然を含めて守っていかなければと思う。下水道施設は生きていくために非常に大事な施設だと思うので、今後ともサポートしていきたい。

(南委員)

この審議会で貴重な経験をさせてもらった。今後、地域や商工会で生かしていきたい。

(貞包委員)

小金井市は地形的には下水道にとって恵まれている立地条件である。引き続き健全経営で運営して行って欲しい。下水道事業のことを市民に対し発信していかないと下水道使用料のことだけでしか関心がなくなってしまう。少しでも市民の理解者を増やすためにも、下水道事業のことを知ってもらう努力を継続して行って欲しい。

(楠元委員)

都からの負担金が増えるなど、状況が変わってきている。現在の市民だけでなく、将来の市民との世代間の公平性も考えながら適切な投資を考えなければならぬと思う。

閉会